

保育かながわ

発行所
 横浜市神奈川区沢渡4の2
 神奈川県保育会

発行人
 冨田 英 雄

題字
 故 内山岩太郎 筆



保育ウィーク

相模原市

相模原市では、昭和五五年から開催してきました保育まつりを、平成六年に保育ウィークと名称変更し、今年度の開催が第二回目となります。

この保育ウィークは、従前、中央会場に各保育園が集い実施していた、保育まつりの実施方法を変えて、各保育園がそれぞれ開催会場となった、地域主体型の催しにしたものです。

今年度も、一一月の第一土曜日から第二土曜日までの一週間を開催期間として、市内の公・私立保育園四六園と療育センターが、それぞれ開催会場となって実施しました。

催し物は、親子で参加し楽しめるもの、地域とのふれあいを図るもの、保育園の内容や育児情報を周知するもの、育児相談やアドバイス、保育園同士の交流など、それぞれ趣向を凝らして実施しました。

多彩な催しにより保育園と地域との交流を深めるとともに、多くの参加者が保育への関心の高まりをみせた保育ウィークとなりました。

ますます加速する

保育制度改変の動き

神奈川県保育会会長 富田 英雄

今私達の知らないところである新しい保育の施策の検討がなされていますし、福祉の世界でもいろいろな施設で統廃合が行なわれはじめました。川崎の乳児院を廃止して養護施設中里学園に合併しました。「乳児から青少年迄一貫した保育と養護がなされる為」だそうです。又脳性麻痺児の治療を行って来たゆかり園が廃止され、その場所に、ゆかり園の機能を残し、更生相談所と、中央児童相談所を合せた、県総合療育相談センターができました。新しいニーズになじむ型に変わっていくのはけっこうですが、急激な過疎化により廃止のやむなきに到る施設の気の毒さは表現の様もありません。先日東京で行われた、全国保育組織正副会長研修会の分散会

で、各県から発表された現状にはびっくりしました。「平成八年度の入園希望者は数名しかなく統合しようにも隣の保育園は二十キロも離れている。エンゼルプランどころではありません。閉園すればその数名の親が困るし、助けて下さい」同席した厚生省保育課の補佐は「へき地保育所費で救えるでしょう」と解答しました。温かい解答ですが百六十万円の補助金で運営できるのでしょうか。神奈川県私達は幸せだと感じました。厚生省の保育課長は、全国各県の保育主管課長を集めて平成八年度の国の保育行政の姿勢や予算について説明会を開きました。目新しいものがいくつかありましたが、「保育園でもバスを使用してよい」について考えてみます。昨年の夏

の終り頃から、そんな噂はちらほら聞こえました。まさかと思っていました。各県の主管課長へ配布した文書の中に、今迄保育所では、バスによる送迎は認めない事で指導して来たが、バスを使用してもよい事とした。但しその実費は原則として保護者負担とするとあります。全国保育協議会予算対策委員会、厚生省並木保育課長補佐を招いて勉強会をした折に聞きました。「バスを購入する費用を保護者に出してもらっていいですか」「そういう方法もあります。保護者は納得しないでしょう」「そうすると法人会計でバスを購入するのでいいか」「そういうことでしょう。しかし、健全に運営が行われている施設で、しかも固定資産物品費の引当金が充分ある場合は、施設会計で購入しても差しかえない」「統廃合を見込んでの措置ですか」「その通りです」。バスが多くの保育園で所有することになって、幼稚園の様な園児

集めはしないでしょうが、心して子どもの幸せの上に立った運営をして欲しいと思います。今厚生省と建設省が中心となって、住宅と保育所と保護者が働く企業をどう結びつけるかという研究がされています。バスのより良い使い方は、この研究会での中心議論になると思います。五十年振りに児童福祉法が改正されます。今中央児童福祉審議会が議論していますが、来年三月の国会で承認される様作業をすすめています。保育については全体会で審議される事になっています。どんな形になるのか心配ですが、今迄のように、与えられたものをどう消化するのではなく、私達の側からどう改正したらよいかを積極的に申し入れようと全体協ではその作業に入りました。児童福祉法の改正で保育園も大きく変わります。手を取り合って新しい保育に脱皮しましょう。

いま、出来ること

いまいずみ保育園 草山 充

保育ニーズの多様化が言われて久しく、保育制度改革も目前となっている。現在の措置費制度をそのまま維持し、単に公費の削減を阻止すれば認可保育所が生き残れるとは、誰も思っていない。保育所への市民の要望を自からの目で掴み、各保育所の理念を保ちながらそれらに応える仕組みをつくれるかどうかである。

そこで、制度の現状から、これからの保育所運営に欠かせないと思われることの一部を示してみる。一、制度の現状から（主に措置費に限って）

措置費は、施設最低基準を維持し保育をするための費用だから、使途はその目的に限定される。しかし、昨今急激に運営の弾力化が図られて、措置費で運営をしぼるという考え方がゆるみ、制度の運

れが利用者に選択されることにならるからだ。

一方で、子育ての社会的支援は必要と国民は考え、保育所への期待も大きい。進んで受けて立つと同時に私たちには何が出来るのかしっかりと示すことによって、保育所全体への理解も深まる。公費の導入にも十分な働きかけになる。

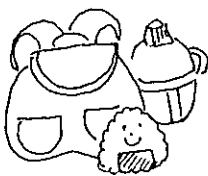
(2) 保育所のマネージメントを一般社会に通用するものにする。職員の人事や労務管理、例えば労働時間や業務の質と量など、あいまいなものがあれば誰でも納得のいくものにする。そうでなければ、真にマンパワーの発揮が出来ないし、将来にわたって良き人材を求め得ない。

また、職員一人ひとりに、職業人としての責務や心構えを確立させることも大きな課題である。さらには、基準業務規定など従来にない業務の内容を明確化するものも有効である。

(3) 人材養成の方法を確立する。

保母の質・保育所のレベルアップに直結する。①職場内外研修②職場内指導体制③自己点検の三つの方法を組み合せる。職場外研修を職場で生かせないという議論がある。本当に受講者の身についたのか、受け身で終わる研修を避けると同時に研修効果に対する評価システムを考えるべきだ。

保育のスーパーバイザーとしての主任保母の存在だけでは、職場内指導体制は不十分である。中堅保母が中心となり、保母に対する保育指導マニュアルなどを利用してきめ細かな対応をする。保母指導のための研修会があってもよい。折りにふれての保育業務の自己点検は重要である。保育者のためし、個々の保育所用に作りかえることよい。



平成七年度 各種研修会

研修部

園長研修会

2月1日(木)～2日(金)

富田会長以下二七名参加

境川保育園視察(約七年前に村立境川保育園と個人立民間保育園とが合併、統合して社会福祉法人立の保育園として成立(村内唯一の公認保育園)定員一四〇人、職員一六人、敷地二九七二㎡(村有地の無償貸与)建物九一五㎡鉄骨造り二階建、耐火建築。当日向山園長先生(県保育所連合会会長)より大変に懇切な説明と手厚いもてなしを受けて恐縮の上、じっくりと施設見学をさせて頂いた。現在は一時保育を実施中で村単補助金年間三百万円。また前記合併、統合の際、村立保育所の若手保母三人は村を退職の上、境川保育園保母として採用された。村内の区域が広いので園バス一台を村の補

助で購入、運行中とのことです。山梨県立美術館、恵林寺、ワイン工場他三か所見学。

主任保母研修会

従来の主任・中堅保母研修会を今年度からそれぞれ分離して実施。

11月20日(月)～21日(火)(一泊二日)箱根湯本 嶺水苑 六十名受講

①講演「新しい保育ニーズへの取組みと主任保母の役割」これからの期待される主任保母の役割
一 平塚保育園園長 猪股祥先生
②講話「保育所は今後どう変わっていくのか」県保育会会長 富田英雄先生。③講演「エンゼルプランと主任保母」いまいずみ保育園園長、全国保育協議会職員カリキュラム検討委員会委員 草山充先生
④参加者意見交換 ⑤県立生命の星、地球博物館見学。なお、第一日の晩は夕食・参加者交流会が、

和やか、賑やかに行われた。

中堅保母研修会

2月19日(月) 県社会福祉会館講堂にて 九八名受講

①講話「これからの保育の状況把握と保母の役割」富田会長の中から「一人の保育園児にかかる費用が公立は民間の三倍、今後保育所の公設民営、民間委託、統廃合が進行する。平成九年度には多分保育所制度が大きく変わるであろう」
②講話「子どものおやつと歯の健康」県歯科医師会公衆衛生委員 速見勝彦先生の中から「むし歯になり易い所は奥歯の溝、歯と歯の間、歯と歯ぐきとの間。プラークがあると甘い物を食べた時に酸性化(二五分後位)して歯が溶ける」
③講演「新しい時代と保育所保母」マンネリにならないために「小田原女子短大助教授 増田まゆみ先生から「保育をしてあげるという意識の残滓(のこりかす)」と閉鎖性の払拭を。マンネリは習慣化

・情性化・新鮮な意欲の低下から生じる」。

調理員研修会

1月24日(水) 県政総合センターホール 一五二名受講

①富田会長挨拶 一節に「保育の領域には知育徳育体育に併せて食育がある」②講話「食品の取扱いと感染症」相模原保健所沢谷広志食品衛生課長(獣医学博士)の一節「保育園給食では生の鳥ガラを使用しない方が無難、生の鳥ガラには病原菌が増殖し易く調理の過程で他の器具等にそれが付着する危険性が高い。また一般に冷凍だけでは食品の中の病原菌は完全には死滅せず加熱によってのみ死滅する」③講話「心とからだを整える」かながわ健康財団保健婦・心理相談員 松浦さおり氏。④試食研修 横浜東急ホテルにて。



給食研修会について

給食問題研究委員会

生野 多恵子

「乳児の栄養と保育所における離乳」をテーマに、平成六年・七年度にわたり三回行い、百二十名の方々が受講、大変好評をいただいた研修です。特に七年度は、年一回の予定が受講希望者が多く、半数の方には待つて頂き二回行う結果となりました。



では、何故この研修が成果をあげる事が出来たのでしょうか。それには次の様な理由があります。

- 一、給食担当者を対象としたアンケート調査(平成五年一月実施)の結果から生れた研修であること。
- 一、「いま 保育所給食に必要な乳児食にテーマをしばったこと。
- 一、講義と調理実習をあわせて行ったこと。
- 一、定員を守ったこと。等々

しかし何と言っても一番良かったのは、水野清子先生と言う素晴らしい講師に恵まれた事でしょう。理論と実践に裏付けされた豊かなご経験からは、多く学ぶものがあり、一日がとても短く感じられました。先生は優しい語り口の中にも厳しい指摘もあり、時間を惜しむように休憩なしで指導して下さいました。従って三回の研修を通して受講者も講義で居眠りする者もなく、実習も真剣に取り組みました。

離乳の初期、中期、後期など一口に言っても聞くのと、見るのは大違いで、与える量や、調理形態もまちまち、各グループ別の作品を前に講評を頂き、自分の眼でしっかりと認識しました。

- 一、基本を見直す。
- 一、基本の理解・調理方法・計量等(自己流や、勘に頼り過ぎず、物事を科学的に見、判断し行うことの大切さ。)
- 一、衛生面の見直し。
- 一、食品の扱い・機器の扱い等(日常的に何気なく、当り前に行っている事柄、行動のチェック。)
- 一、子どもの成長発達を知る
- 一、個人差の理解・健康状態の把握(月齢にこだわらない、離乳のテンポを急ぎすぎないなど。)

尚、この研修ではベビーフードの紹介説明があり、保育園給食でも忙しい時や、アレルギー児など



への対応で、その使い方に柔軟な新しい視点も与えて頂きました。最近の研修会には、若い栄養士の参加が増えており、水野先生は保育園の給食現場の職員として、これからの働きと、その成長に期待をして居られます。

私達もこの方達が是非育って欲しいと願っています。昨年十二月には「離乳の基本」も改定されましたし、取り組む課題は次々と出てきます。そして時はまさに「エンゼルプラン」初年度です。

次代を担う子ども達の健康な心と体づくりに、おいしい食事を作り続けていきましょう。新年度は、三回の研修を基礎に、受講者を核にして更に内容を深めていくことが出来ればと思っています。みなさまのご協力をお願いします。

第39回全国保育研究大会

(平成7年10月25日〜27日)

に参加して

さすがに杜の都と言われるだけあって、東北の都「仙台市」は、けやきや銀杏の並木に囲まれた、広々とした緑濃き都市です。

第一日の全体会は、すばらしい「仙台サンプラザ」の大ホールで行われました。開会前全国から



駆けつける大勢の会員たちが殆ど着席するまで、オープニングの若さにあふれた、和太鼓による「すずめおどり」にうっとりとし見入り、その素晴らしさに拍手喝采を贈りました。開会式では「児童憲章」が朗々と読まれ、これから始まる大会主題「大きくふくらませよう、子供達の夢」が、一層膨らんで行くような思いでした。続いて関西の大地震で尊い犠牲となられた保育関係物故者の為に、全員で暫しの祈りを捧げました。主催者の挨拶後、保育のために貢献なさった方、永年勤続の大勢の方々の表彰が行われ、今後一層のご活躍を祈りました。次は「厚生省児童家庭局保育課長 福井和夫氏の講演「保育行政の動向について」の表題で、分かりやすく、保育と子供を取り巻く諸問題、四省により策定されたエンゼルプランの基本的方向について、又その具体化の一環として出された「緊急保育対策

等五ヶ年事業」など今日的な課題のお話でした。基調講演は横須賀基督教社会館館長の阿部志郎氏から「二十一世紀を見つめたこれからの福祉」と題して、物の豊かさや、力の強さのみ重視して来た今日の社会の歪み、生存の危機をしっかりと見極め、より高く、されど、より低くの精神をもって、取り組んで行くようにと、感動的なお話になりました。二日目は、特別集会を含めて十四もの分科会に分かれ、一日熱心な討議が交わされました。こうしてあっと言う間に最後の三日目を迎えました。

サンプラザ会場は、初日よりも人出が増して、入り口は帰りの荷物やお土産を送る人で大混雑していました。僅か三日間でしたのに関係の皆様のおかげで届いたお世話を頂いて、すっかりいい気持ちになって、それぞれ帰路につきました。大会関係者の皆様、仙台市の皆様、本当にありがとうございました。

感謝状受賞に際して

渡邊 正幸

未来を担う子供のために保育園をやってもえれないか、という市の方からの依頼がありまして、私に適しているか、できるかどうかなど軽い気持ちで受けた仕事が二三年がたちました。あとを振り返るとまもない毎日を過しておりましたところ、今回はからずも県保育会の会長さんから感謝状をというお知らせを頂き、自分はワールドプランの中に入っていないながらエンゼルプランを進めて行くという時に差しかかって、仙台の会場に参加させて頂きました。皆さんの熱気につつまれて賞を頂き、講演を拝聴して、元気を出して歩んだ道を進もうと、思いを新たにしてお頭張ろうと思っております。

県保育会の役員の方、事務局の方には大変お世話になり、お礼の申し上げようもございません。ありがとうございました。



全国大会の開催に向けて

総務部長 都 築 融 光

当会の運営の柱となる総務部は、会長の意図を常に把握し、各部長との連携を図りつつ変わりゆく保育の現状のニュースを会員の皆様へいち早くお届けするように努力いたしております。また、八年度は委員改選となりますので、各部の人事等についても会長に積極的に進言をして参りたいと思っております。

平成九年の全国保育事業大会は神奈川県で開催と決定されました。この大会の運営委員長として当会の会長が采配をふるうことになり、副会長をはじめ各委員の先生方と、県並びに社協とのパイプをつなぐことが総務部の大きな仕事となつてまいります。全国大会については、委員の先生方には開催時期は平成九年十一月十九日(水)二十一日(金)と内定したことをお知らせいたしております。また、開催地につきましても、全国から

集う先生方に豊かな自然のなかで、充分な研究成果が得られますよう、神奈川県がその名を誇る観光地箱根を第一候補地といたしました。問題点も多々ありますが、今後の準備委員会、更に実行委員会の体制づくりへと移行させながら大会担当業者の選考等を行いたいと思っております。当面は、平成八年度第四十回記念大会を開催する大阪に向けて引継ぎの準備に入つて参りたいと考えております。平成八年度・九年度の委員となられる先生方、並びに過去において県保育会委員として活躍された先生方のご協力も頂き、この大会を支えて下さる横浜・川崎を含めた全県下の児童福祉に携わる方々にとつて意義のある大会にしたいと考えております。よろしくお力添えの程お願い申し上げます。

『保母の日』前夜祭

平成七年度、神奈川県保母賞受賞式は『保母の日』十二月二日(土)に行われたが、それに先立ち、前夜祭が神奈川県保育会主催により、横浜市東急ホテルに於て行われた。

受賞者は、神尾くに子氏(西湘秦野保育園) 斉藤百合子氏(大井



保育園) 佐藤里子氏(中新田保育園) 鈴木みち子氏(小田原乳児園) 小林節子氏(金田保育園) 各氏共喜びいっぱい表情であった。

叙勲を受けられた河野シゲ氏(あさひ保育園) 鈴木弘子氏(依知保育園) 廣田信子氏(玉成保育園) 松原敏子氏(西大友保育園) として、厚生大臣表彰を受賞された富田英雄氏、各氏の保育事業への永年の労苦と情熱を労いたい。

アトラクションのピアノデュオ 角野裕・怜子御夫妻のお人柄をしのばせるステキな演奏であった。にぎやかに懇親、スナップ写真に納まり、かくして盛会の内に前夜祭がとり行われたのである。



平成七年後期

関東ブロック

保育事業連絡協議会

関東ブロック内十一都県並びに

三指定都市、社会福祉協議会保育部会（協議会）及び保育の代表で

構成される保育事業連絡協議会が十一月二十七・二十八日茨城県、

同県社会福祉協議会、同県保育協議会の主催で、北茨城市五浦に於

いて開催されました。神奈川県からは児童福祉課深田主幹、保育会、

保母会正副会長、及び社会福祉協議会主事が出席しました。会議は

それぞれの部会に分かれ、保育会では「緊急保育対策等五か年事業

の実施状況」、「地方版エンゼルプランの内容」、「中核都市になっ

た際の県組織からの分離について」等でした。二日目の講演は全国保

育協議会松川副会長により、「最近のエンゼルプランの状況」とい

う題で文部省、労働省の内容、介護保険制度等が話されました。

おめでとうございます

平成七年度中に本会関係者で叙

勲・褒賞および大臣表彰の栄誉を

受けた方々

春の叙勲・褒章

玉成保育園 廣田信子 様

依知保育園 鈴木弘子 様

秋の叙勲

あさひ保育園 河野シゲ 様

西大友保育園 松原敏子 様

厚生大臣表彰 岩瀬保育園 富田英雄 様

ご冥福をお祈りいたします

天利俊明様（中島保育園理事長）

平成七年五月八日逝去

松岡謹様（測野辺保育園理事長）

平成七年七月十八日逝去

小林繁雄様（太田和保育園前園長）

平成七年八月一日逝去

鈴木花枝様（荻野すみれ愛児園理

事長兼園長）

平成八年二月九日逝去

廣田正明様（玉成保育園理事長兼

園長）

平成八年三月二十一日逝去

平成八年度の

主な事業予定

◎第三〇回神奈川県保育事業大会

平成八年五月十八日

神奈川県社会福祉会館

◎関東ブロック保育研究大会

平成八年七月三〜五日

大宮ソニックシティ大ホール

平成八年度全国共通テーマ

神奈川県発表割当

第一分科会

新しい時代の保育所をめざして

―地域の保育所ニーズへの対応

と子育て支援活動の推進を考

える―

第六分科会

保育指針と保育実践をめぐって

―乳児―

◎全国保育研究大会

平成八年十月二十三〜二十五日

大阪厚生年金会館

あとがき

保育園における事故が絶無でな

いことと、要求する期待の高さか

らでしようか、批判の声を耳にす

る昨今です。未成熟な人は、他者

批判の場に置かれると、理性では

なく感情で受け止め、更に、事柄

の指摘を人格批判と理解する傾向

があるとのことですが、確かに、

一面では真実かなとも思います。

いかがでしょうか。

日々の仕事に驚きと発見を失っ

た状況をマンネリと言いますが、

常に仕事の原点を意識して役割期

待を確認する姿勢を持ち続けるこ

とがいかにか大変かと「子どもたち

の悲痛な叫び」を読み気が付きま

した。

批判を知恵の提供と受け止め、

傾聴し、批判する人の知恵を活用

して、新しい保育園を創造するエ

ネルギーにしたいと考えました。

平塚市 橋本幸子